



株主のみなさまへ

第111期 中間報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

株主のみなさまへ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第111期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）上半期の、
当社グループの業績及び事業活動の概況についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ相変わリませぬご支援
ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

取締役会長

野村哲也

取締役社長

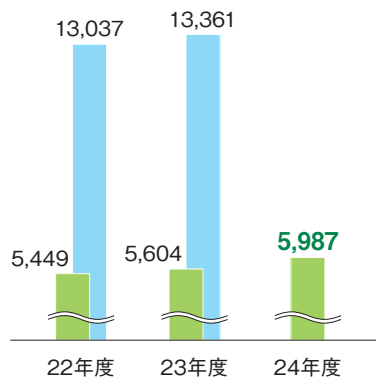
宮本洋一

決算ハイライト

連結売上高

5,987 億円

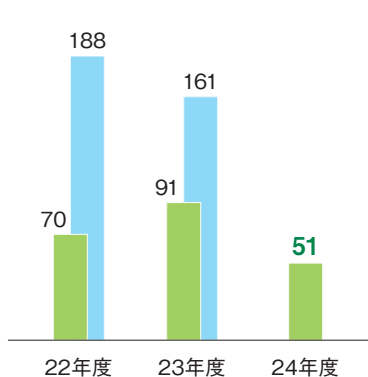
前年同期比 +6.8%



連結経常利益

51 億円

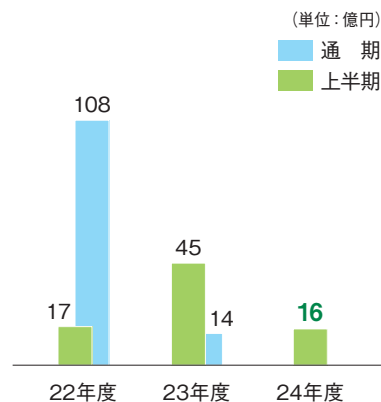
前年同期比 △43.2%



連結当期純利益

16 億円

前年同期比 △63.9%



当上半期の日本経済は、復興需要の効果は持続しているものの、海外経済の減速を反映し、景気は低調に推移しました。

建設業界においては、復旧・復興工事を中心とする公共工事の増加を背景に、業界全体の受注高は、前年同期を上回る水準で推移しましたが、受注競争の緩和には至らず、依然として厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当上半期の売上高は、完成工事高が増加したことにより、前年同期に比べ6.8%増の5,987億円となりました。

利益については、工事採算の低下に伴う完成工事総利益の減少に加え、開発事業等総利益の減少などにより、経常利益は前年同期に比べ43.2%減少し51億円となり、純利益は16億円となりました。

また、中間配当金は、前年同期と同額の1株につき3円50銭といたしました。

なお、連結有利子負債の残高は、前期末に比べ271億円減少し3,481億円となりました。

事業の概況 (連結及び単体)

連 結

当上半期の事業別連結業績

売 上 高	5,987 億円	前年同期比	+ 6.8%
うち 建設事業	5,439 億円	+	7.1%
開発事業等	547 億円	+	4.5%
売上総利益	367 億円	前年同期比	△ 13.1%
うち 建設事業	300 億円	△	11.4%
開発事業等	66 億円	△	19.7%
有利子負債残高	3,481 億円	24年3月末比	△271億円

通期の連結業績見通し

売 上 高	1兆4,100 億円	前 期 比	+ 5.5%
経常利益	150 億円	△	7.2%
当期純利益	55 億円	+284.6%	
有利子負債残高	3,700 億円以内	24年3月末比	△ 53億円

■ 建設事業

売上高は、前年同期に比べ7.1%増加し5,439億円となりましたが、利益については、工事採算の低下により、前年同期に比べ11.4%減少し300億円となりました。

主要な連結子会社

(株)東京鐵骨橋梁 片山ストラテック(株) 第一設備工業(株)
(株)シミズ・ビルライフケア シミズ・ノースアメリカLLC 清水建設(中国)有限公司

■ 開発事業等

売上高は、子会社の不動産事業で増加したことなどから、前年同期に比べ23億円増加し547億円となりましたが、利益については、前年同期に当社で大型投資開発プロジェクトを計上したことの反動などから、16億円減少し66億円となりました。

主要な連結子会社

清水総合開発(株) (株)ミルックス (株)エスシー・マシーナリ シミズ・ファイナンス(株) 多摩医療PFI(株)
シミズ・インターナショナル・ファイナンス(U.S.A.) 社 シミズ・インベストメント(アジア) 社

■ 通期の業績見通し

下半期の日本経済は、復興需要の持続等により、回復基調への回帰が期待されますが、円高の継続、欧州における債務問題、新興国の成長鈍化による輸出の伸び悩み等の要因による景気の下振れも懸念され、総じて先行き不透明な情勢です。

建設業界においても、震災関連予算の執行によるインフラ復旧・復興工事、民間の復興需要等が予測されるものの、原材料価格の上昇、労働需給の逼迫等の経営環境を悪化させる要因も懸念されるなど、予断を許さない状況が続くものと思われます。

このような状況のもと、平成24年度通期の連結業績は、売上高1兆4,100億円(前期比+5.5%)、経常利益150億円(前期比△7.2%)、当期純利益55億円(前期比+284.6%)を見込んでおります。

また、連結有利子負債の残高は、3,700億円以内を見込んでおります。

単 体

当上半期の当社単体の業績

受注(契約)高	5,400億円	前年同期比 + 3.5%
売 上 高	5,077億円	+ 2.5%
経常利益	22億円	△ 69.5%
当期純利益	6億円	△ 85.2%
有利子負債残高	2,488億円	24年3月末比 △248億円

通期の当社単体の業績見通し

受注(契約)高	1兆 1,900億円	前 期 比 + 0.6%
売 上 高	1兆 2,300億円	+ 3.8%
経常利益	120億円	△33.6%
当期純利益	55億円	△ 1.0%
有利子負債残高	2,700億円以内	24年3月末比 △37億円

■受注(契約)高

当社単体の受注(契約)高は、前年同期に比べ3.5%増加し5,400億円となりました。その内訳は、建設事業97%、附帯事業3%です。

建設事業受注高は、土木工事は減少したものの、建築工事が増加したことから、前年同期に比べ3.2%増加し5,257億円となりました。

また、附帯事業契約高は、前年同期に比べ20億円増加し142億円となりました。

■売上高

売上高については、前年同期に比べ2.5%増加し5,077億円となりました。その内訳は、建設事業98%、附帯事業2%です。

完成工事高は、土木工事は減少したものの、建築工事が増加したことから、前年同期に比べ5.1%増加し4,969億円となりました。

また、附帯事業売上高は、前年同期に比べ118億円減少し108億円となりました。

■利 益

利益については、工事採算の低下に伴う完成工事総利益の減少に加え、大型投資開発プロジェクトの売上利益の減少などから、経常利益は前年同期に比べ69.5%減少し22億円となり、純利益は6億円となりました。

なお、有利子負債の残高は、前期末に比べ248億円減少し2,488億円となりました。

受注工事の主なもの

建築 工事	三井不動産レジデンシャル株式会社 東京建物株式会社 三菱地所レジデンス株式会社 東急不動産株式会社 住友不動産株式会社 野村不動産株式会社	豊洲3-2街区[B3街区]開発計画
	大日本印刷株式会社	大日本印刷市谷工場整備計画建設工事(A工区)
	習志野4特定目的会社	プロロジスパーク習志野4 新築工事
	国土交通省	田尻地区函渠その6工事
土木 工事	愛知県	内陸用地造成事業 豊田・岡崎地区東工区整地工事その1

完成工事の主なもの

建築 工事	株式会社野村総合研究所	東京第一データセンター新築工事
	学校法人青山学院	大学17号館新築工事
	六本木一丁目南地区 市街地再開発組合	パークコート六本木ヒルトップ新築工事
土木 工事	京王電鉄株式会社	調布駅付近連続立体交差工事 (土木)第4工区その3
	国土交通省	熊野尾鷲道路大吹トンネル大泊工区工事

経営方針と重点施策

当社グループは、毎期「経営3ヶ年計画」をローリング方式で策定し、グループ全体の競争力、収益力の強化に努めています。平成24年度を初年度とする現行計画では、現下の厳しい経営環境に対応していくために、以下の経営方針に基づき、諸施策を策定、実行しています。

『経営3ヶ年計画（平成24～26年度）』（要旨）

〈経営方針〉

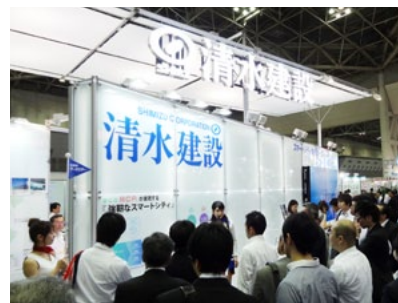
「経営環境の変化に柔軟に対応し、コアビジネス・建設事業の収益力の強化と事業領域の戦略的な拡大により、持続的な成長を実現する」

〈重点施策〉

1. 建設事業のあらゆる段階での競争力強化
 - ・プロジェクト上流段階におけるリスク管理の徹底とフロントローディングの実践
 - ・BSP戦略の推進によるリニューアル受注及びBM事業の拡大
 - ・ものづくり・生産システム改革活動の一層の推進
2. 環境・BCP・エネルギー分野への取り組み強化
 - ・シミズグループの総合力を結集した震災復興への貢献
 - ・「ecoBCP」提案の推進と実践
 - ・再生可能エネルギー、スマートコミュニティ、排出権プロジェクトなど、サステナビリティ分野における収益事業化の推進
3. 経営基盤の強化
 - ・CSR経営の継続的实践
 - ・内勤部門の生産性・業務効率の向上
 - ・建設、ストックマネジメント、グローバル、サステナビリティの各事業基盤の強化に向けた効果的な人材の育成・交流と再配置の推進



ecoLCP*集合住宅
「(仮称) K2westプロジェクト」完成予想パース
* LCP (Life Continuity Plan)
非常時における生活の継続性に配慮した計画



スマートグリッド展2012に出展

計画に掲げた施策を着実に実行し、収益力の強化、利益の確保により持続的な成長を実現いたします。とりわけ、震災復興への貢献、「ecoBCP」提案の推進と実践については、建設業が果たすべき社会的使命と考え、全社を挙げて取り組んでいます。

以上のような取り組みを通じ、コーポレート・メッセージ「子どもたちに誇れるしごとを。」に込めた想いを、役員・従業員全員が日常の諸活動の中で実践し、東日本の復興、日本経済の回復・成長に寄与すべく、全力を尽くしてまいります。

会社概況／株式の状況

(平成24年9月30日現在)

創 業 文化元年(1804年)
資 本 金 743億円
売 上 高 1兆1,848億円(平成24年3月期)
代 表 者 取締役社長 宮本 洋一
従業員数 10,858名

■主要な営業所等

本 社 東京都中央区京橋二丁目16番1号
東 京 支 店 (東京都中央区) 名 古 屋 支 店 (名古屋市)
横 浜 支 店 (横浜市) 広 島 支 店 (広島市)
千 葉 支 店 (千葉市) 九 州 支 店 (福岡市)
大 阪 支 店 (大阪市) 土 木 東 京 支 店 (東京都中央区)
神 戸 支 店 (神戸市) 土 木 横 浜 支 店 (横浜市)
四 国 支 店 (高松市) 国 際 支 店 (シンガポール)
北 海 道 支 店 (札幌市) 投 資 開 発 本 部 (東京都中央区)
東 北 支 店 (仙台市) エンジニアリング事業本部 (東京都中央区)
北 陸 支 店 (金沢市) 技 術 研 究 所 (東京都江東区)
関 東 支 店 (さいたま市)

■海外営業網

大 連	ホーチミン	バンガロール	ニューヨーク
上 海	バンコク	グルガオン	アトランタ
広 州	ヤンゴン	タシセント	ティファナ
香 港	クアラルンプール	ドバイ	ケレタロ
台 北	シンガポール	ヴロツワフ	
マニラ	ジャカルタ	ブラハ	
ハノイ	ダッカ	ロンドン	

■株式の状況

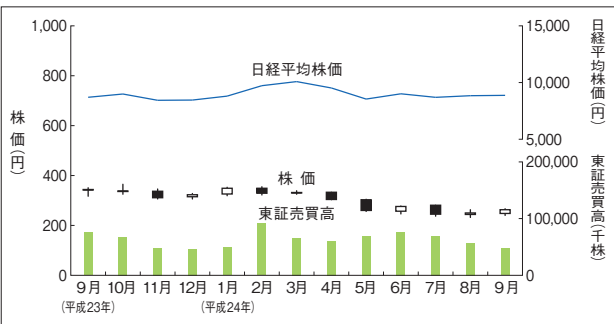
発行可能株式総数 1,500,000,000株
発行済株式の総数 788,514,613株
株主数 50,650名

■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持分比率 (%)
清水地所株式会社	60,129	7.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	39,096	5.0
社会福祉法人 清水基金	38,100	4.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	36,587	4.7
清水建設持株会	23,502	3.0
一般財団法人 住総研	17,420	2.2
株式会社 みずほコーポレート銀行	16,197	2.1
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	13,762	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	12,018	1.5
第一生命保険株式会社	10,564	1.3

※持分比率は、自己株式(2,473千株)を控除して計算しております。

■株価及び売買高の推移



連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

科 目	当上半期末 平成24年9月30日現在	前期末 平成24年3月31日現在	増 減
（資産の部）			
流動資産	8,313	9,276	△ 963
現金預金	987	1,507	△ 520
受取手形・完成工事未収入金等	3,760	4,269	△ 509
有価証券	550	590	△ 40
未成工事支出金	1,072	781	291
たな卸不動産	465	461	3
PFI事業等たな卸資産	506	513	△ 6
その他	985	1,168	△ 182
貸倒引当金	△ 14	△ 15	0
固定資産	4,831	4,832	△ 1
有形固定資産	2,443	2,318	124
無形固定資産	38	37	0
投資その他の資産	2,350	2,476	△ 126
投資有価証券	2,103	2,233	△ 130
その他	301	307	△ 5
貸倒引当金	△ 55	△ 64	9
資産合計	13,145	14,109	△ 964

（資産の部）

現金預金や受取手形・完成工事未収入金などの減少により、資産合計は、1兆3,145億円となり、前期末に比べ964億円減少しました。

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

（単位：億円）

科 目	当上半期末 平成24年9月30日現在	前期末 平成24年3月31日現在	増 減
（負債の部）			
流動負債	7,380	8,031	△ 651
支払手形・工事未払金等	3,314	3,983	△ 668
短期借入金	1,655	1,684	△ 28
1年内返済予定の プロジェクトファイナンス借入金	52	60	△ 8
未成工事受入金	1,324	1,125	198
完成工事補償引当金	28	27	0
工事損失引当金	235	249	△ 14
その他	768	900	△ 131
固定負債	2,760	3,007	△ 247
社債	600	700	△ 100
長期借入金	860	955	△ 94
プロジェクトファイナンス借入金	312	352	△ 40
退職給付引当金	536	545	△ 9
関連事業損失引当金	21	22	△ 1
その他	429	430	△ 0
負債合計	10,140	11,039	△ 898
（純資産の部）			
株主資本	2,456	2,468	△ 12
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	-
利益剰余金	1,296	1,308	△ 12
自己株式	△ 14	△ 14	0
その他の包括利益累計額	520	574	△ 53
少数株主持分	27	27	△ 0
純資産合計	3,004	3,070	△ 65
負債純資産合計	13,145	14,109	△ 964

1株当たり純資産額 379.45円 387.74円

（負債の部）

支払手形・工事未払金などの減少により、負債合計は、1兆140億円となり、前期末に比べ898億円減少しました。

（純資産の部）

株式相場の下落に伴うその他の包括利益累計額の減少などにより、純資産合計は、3,004億円となり、前期末に比べ65億円減少しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	前年同期比
	平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	
売上高	5,987	5,604	6.8%
完成工事高	5,439	5,080	7.1%
開発事業等売上高	547	524	4.5%
売上原価	5,619	5,182	
完成工事原価	5,138	4,740	
開発事業等売上原価	481	441	
売上総利益	367	422	△ 13.1%
完成工事総利益	300	339	△ 11.4%
開発事業等総利益	66	82	△ 19.7%
販売費及び一般管理費	324	321	
営業利益	42	101	△ 58.1%
営業外収益	48	37	
営業外費用	38	48	
経常利益	51	91	△ 43.2%
特別利益	28	21	
特別損失	40	14	
税金等調整前当期純利益	39	97	△ 59.7%
法人税等	23	53	
少数株主損益調整前当期純利益	16	44	
少数株主損失(△)	△ 0	△ 0	
当期純利益	16	45	△ 63.9%
1株当たり当期純利益	2.08円	5.77円	

売上高は、完成工事高、開発事業等売上高ともに増加し、前年同期に比べ6.8%増の5,987億円となりました。

売上総利益は、完成工事総利益の減少に加え、開発事業等総利益が大幅に減少したことにより、前年同期に比べ13.1%減少し、367億円となりました。

経常利益は51億円、特別損益や法人税等を加減した当期純利益は16億円となりました。

なお、特別利益には固定資産売却益を、特別損失には投資有価証券評価損などを計上しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	増 減
	平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	
現金及び現金同等物の期首残高	2,097	2,462	△ 364
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 96	△ 434	338
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 157	△ 79	△ 78
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 299	△ 77	△ 221
その他の増減額	△ 6	△ 14	7
現金及び現金同等物の増減額	△ 560	△ 606	46
現金及び現金同等物の上半期末残高	1,537	1,855	△ 318

営業活動によるキャッシュ・フローは、支払手形・工事未払金等の仕入債務の減少などにより、96億円の資金減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、当社における賃貸事業用資産の取得や本社新社屋の建設費などにより、157億円の資金減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還や長期借入金の返済などにより、299億円の資金減少となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当上半期末の残高は、前期末に比べ560億円減少し、1,537億円となりました。

単体財務諸表

貸借対照表（要旨）

科 目	当上半期末 平成24年9月30日現在	前期末 平成24年3月31日現在	増 減
（資産の部）			
流動資産	6,678	7,661	△ 983
現金預金	656	1,258	△ 601
受取手形	94	119	△ 25
完成工事未収入金	3,342	3,799	△ 457
有価証券	550	590	△ 40
販売用不動産	166	142	24
未成工事支出金	1,015	722	293
その他	865	1,042	△ 177
貸倒引当金	△ 12	△ 13	0
固定資産	4,316	4,301	15
有形固定資産	1,810	1,679	130
無形固定資産	29	28	0
投資その他の資産	2,477	2,593	△ 115
投資有価証券	2,232	2,360	△ 128
その他	301	298	3
貸倒引当金	△ 56	△ 65	9
資産合計	10,995	11,963	△ 967

（単位：億円）

科 目	当上半期末 平成24年9月30日現在	前期末 平成24年3月31日現在	増 減
（負債の部）			
流動負債	6,305	6,995	△ 690
支払手形	102	120	△ 18
工事未払金	2,836	3,477	△ 641
短期借入金	1,054	1,110	△ 55
未成工事受入金	1,186	992	194
完成工事補償引当金	27	27	0
工事損失引当金	223	238	△ 15
その他	873	1,028	△ 154
固定負債	2,276	2,476	△ 199
社債	600	700	△ 100
長期借入金	833	927	△ 93
退職給付引当金	492	499	△ 7
関連事業損失引当金	24	24	-
その他	325	324	1
負債合計	8,581	9,471	△ 890
（純資産の部）			
株主資本	1,847	1,869	△ 22
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	-
利益剰余金	682	705	△ 22
自己株式	△ 10	△ 10	0
評価・換算差額等	566	621	△ 54
純資産合計	2,414	2,491	△ 77
負債純資産合計	10,995	11,963	△ 967
1株当たり純資産額	307.14円	316.94円	

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

損益計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	前年同期比
	平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	
売上高	5,077	4,953	2.5%
完成工事高	4,969	4,726	5.1%
附帯事業売上高	108	227	△ 52.3%
売上原価	4,810	4,611	
完成工事原価	4,722	4,437	
附帯事業売上原価	88	173	
売上総利益	266	341	△ 22.0%
完成工事総利益	247	288	△ 14.3%
附帯事業総利益	19	53	△ 63.3%
販売費及び一般管理費	259	259	
営業利益	6	82	△ 91.8%
営業外収益	50	35	
営業外費用	33	43	
経常利益	22	75	△ 69.5%
特別利益	28	21	
特別損失	40	14	
税引前当期純利益	10	81	△ 86.7%
法人税等	4	40	
当期純利益	6	40	△ 85.2%
1株当たり当期純利益	0.77円	5.20円	

■中間配当について

- 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき 金3円50銭 総額2,751百万円
- 剰余金の配当が効力を生じる日
平成24年12月4日

受注（契約）高・売上高・繰越高の内訳

（単位：億円）

区 分	前期繰越高	当上半期 受注（契約）高	当上半期 売上高	次期繰越高
建設事業				
建 築	9,078	4,437	4,127	9,387
土 木	3,213	820	841	3,192
計	12,291	5,257	4,969	12,580
附帯事業	266	142	108	300
合 計	12,558	5,400	5,077	12,880

建設事業受注高の内訳

（単位：億円）

区 分	当上半期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前年同期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	増 減
建 築			
国 内	4,280	3,638	641
海 外	157	162	△ 4
計	4,437	3,800	636
土 木			
国 内	806	1,233	△ 427
海 外	13	59	△ 45
計	820	1,293	△ 472
合 計			
国 内	5,086	4,872	214
海 外	171	221	△ 50
計	5,257	5,093	163

トピックス

歌舞伎の伝統を次世代に継承

第五期歌舞伎座への建て替え工事がいよいよ佳境へ

東京・銀座で歌舞伎の殿堂として親しまれている歌舞伎座。2010年4月末、第四期歌舞伎座が閉場し、その後、当社施工で第五期への建て替え工事が始まりました。現在、工事は佳境を迎えており、2013年春には新たな歌舞伎座が誕生する予定です。

建て替え前の第四期歌舞伎座の工事・維持管理を当社が担当

初代の歌舞伎座が開場したのは1889(明治22)年11月のこと。以降、歌舞伎座は老朽化や震災などにより改修や建て替えが行われ、三度その姿を変えてきました。当社では、戦禍を受けた第三期の建物の一部を再利用して、改修・再建した第四期の工事に携わりました。その後60年にわたり、第四期の建物本体や設備機器はもちろん、舞台機構や照明、音響などにおける維持管理も担当してきました。

新しい歌舞伎座 伝統を継承しながら、最新技術を盛り込む

本工事の一番の特徴は、歌舞伎の伝統を継承しながら、周辺の街並みや環境とも調和する建物を目指し、劇場と高層オフィスビルを一体的に建設することです。劇場部分は第四期のデザインを踏襲、オフィスビル部分は歌舞伎座の背景として柔かな陰影を生み出す、日本建築の捻子連子格子(ねりこれんじごうし)をモチーフとした外装となっています。

当社は、長年の維持管理での経験やノウハウに加え、創業時から培ってきた伝統建築の技術と最新の建設技術を活かし、施工を続けてきています。残す工期も現場一丸となって作業を進めていきます。



建て替え工事中の歌舞伎座の全景。オフィスビル部分はすでに上棟しており、地上29階、最高高さ145.5m



劇場屋根部分の瓦は職人が一つひとつ形状を調整・加工しながら設置



劇場の高欄部分も、熟練の技で組み物が取り付けられる

エネルギーの新たな未来を拓く

スマートグリッドの日米共同実証プロジェクトが開始

再生可能エネルギーのさらなる活用に向けて、スマートグリッド（次世代電力網）への期待が高まっています。そうした中、当社が国内のさまざまな企業とともに取り組む商業地域スマートグリッド実証プロジェクトが、2012年5月、ニューメキシコ州アルバカーキ市でスタートしました。

国内企業9社が共同で参画

当社と東芝、シャープ、明電舎、東京ガス、三菱重工業、富士電機、古河電気工業、古河電池の9社は、「スマートグリッドの日米共同実証プロジェクト」の一環である「アルバカーキ市における商業地域スマートグリッド実証プロジェクト」の実証研究を開始しました。

本プロジェクトは、NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）から受託したもの。研究期間は2014年3月までで、2012年5月18日には現地において実証施設の開所式が執り行われました。

全体システムの運用と検証を当社が担当

本プロジェクトでは、アルバカーキ市にある既存の商業ビルに、太陽光発電50kW、ガスエンジン発電機240kW、燃料電池80kW、蓄電池90kWを電源とする400kW級のマイクログリッド（需要者側の電力供給網）を構築。各設備を制御することで、①商用電力の供給者（電力会社）からの要請に基づいた商業ビル内の需給調整（デマンドレスポンス）、②商業ビル内の電力熱需要に応じた安定的な自立運転、③地域の電力会社が敷設している太陽光発電

の出力変動補完、などを行うことが目的です。

実証において当社は、マイクログリッドとBEMS（ビル・エネルギー・マネジメント・システム）の設計・構築、全体システムの運用と検証などを担当します。米国からは、地域の電力会社とサンディア国立研究所、ニューメキシコ大学が参画し、今後、電力会社と需要者側とで協調を図ったスマートグリッドの実証を目指します。

当社の担当範囲



プロジェクト概念図



本プロジェクトの対象となるビル

トピックス

新たな国土軸の整備に貢献

開通した新東名高速道路で12件の工事を建設

2012年4月14日、構想から20年以上の歳月を経て、新東名高速道路・御殿場JCT～三ヶ日JCT間が開通しました。新東名は、首都圏と中京圏をつなぐ新たな国土軸であり、地域の活性化が大いに期待されています。当社は同区間の建設において、12件の建設工事に携わりました。

新工法や新技術を積極的に開発・採用

現在開通している新東名は、区間延長162km。一度に供用される高速道路の長さとしては過去最高です。このうち当社では、1996年に着工した「富士川トンネル」に始まり、2012年3月に完成した「藤枝工事」まで、16年間で12件の建設工事に携わりました（右頁参照）。

各工事では、積極的に新工法や新技術を開発・採用しました。例えば、富士川トンネルでは断層破碎帯対策として

直径5mのTBM（トンネルボーリングマシン）で導坑を先進掘削し、これを利用して本坑を拡張掘削しました。また今里トンネルでは、新工法による地表面の沈下抑制と超微粒子セメントを使用した地盤改良を実施。これらはともに土木学会技術賞を受賞しました。

次期開通区間で4件の工事を建設中

新東名では現在、次期開通区間である浜松いなさJCT以西の工事が進んでいます。当社ではこのうち、愛知県内にある観音山トンネル、東上トンネル、五反田川高架橋、鳳来トンネルの4工事を建設しています。今後は、2020年度までに海老名南JCT～豊田東JCTの全線が開通し、その全長は254kmとなる予定です。



■今回開通区間で当社が携わった建設工事



①今里トンネル

200mを超える大断面の超近接・低土被り双設トンネル



②大畑橋

裾野市大畑地区の狭隘な谷間に位置する橋梁のPC上部工工事



③駿河湾沼津サービスエリア

SA商業施設の新ブランド「NEOPASA」を代表する施設で、海を見渡すことのできる唯一のサービスエリア



④春山川橋

富士市西船津地区上下線のPC上部工工事



⑤富士川トンネル

新東名高速道路で2番目に長いトンネル



⑥清水いはらインターチェンジ

490万㎡の超大規模土工事とランプ橋のコンクリート高橋脚を施工



⑦伊佐布工事

新東名高速道路最大級となる最大切土高100mの長大切土を含む法面工



⑧羽鳥トンネル

急峻な崖に坑口が位置するトンネル工事



⑨村良高架橋

藤枝岡部ICに位置する村良高架橋とランプ橋のPC上部工工事



⑩藤枝工事

藤枝PAの造成を含む土工量286万㎡の道路土工



⑪園田高架橋

“森の石松”で有名な静岡県周智郡森町に位置するPC上部工工事



⑫奥山トンネル

浜松いなさICと三ヶ日JCTの間にあるトンネル

シミズのものづくり

相互館110タワー

新たに建設した相互館110タワーは、1921（大正10）年竣工の第一相互館、1971（昭和46）年竣工の第一生命相互館に続く、三代目の「相互館」です。当社は初代、二代目

の建設にも携わってきました。今回の建設では、同建物の歴史とお客様の想いを未来に受け継ぐべく、計画・デザインや設計・施工段階でさまざまな工夫を行いました。



京橋交差点からの相互館110タワー全景

■工事概要	所在地：東京都中央区京橋
	発注者：第一生命保険株式会社
	計画・デザイン：当 社
	設計・監理：当 社
	工 期：2010年7月～2012年6月



地上約60mから周辺を一望できるドーム。尖塔のデザインは初代建物から受け継がれた



コーナーエントランス上部には相互館110タワーのロゴが配されている



LED照明を四隅に配したグリッド天井は、「オンラインの建物にしたい」というお客様の要望のもとに当社が新規開発した

お客様から



第一生命保険株式会社
支配人兼補佐役
インハウスアーキテクト
梅垣 春記 様

当社は2012年に創業110周年を迎えました。そして、次なる110年に向けて世紀を超えて存在していく建物を、との想いも込めて、今回「相互館110（いちいちまる）タワー」と名付けました。

建設にあたっては御社とともに計画やデザインを模索。初代の第一相互館が担っていたランドマーク

的役割や、関東大震災でもびくとしなかった堅牢さを踏襲しながら、テナントビルとしての商品価値と合理性も追求できました。今後は、当建物が街の活性化に貢献するようソフト面を充実させていきます。

最難関の地下工事に全スタッフの技術と知恵を注ぐ

今回の工事では、相互館へのお客様の強い思い入れに應えるため、建物上部に尖塔のドームを設けたり、外装にレンガ壁を模した矢羽根模様のタイルを用いるなど、初代建物を彷彿とさせるデザインを随所に盛り込みました。また施工では、主に在来工法を用いて、精度の良い躯体を構築することに注力しました。



工事長 西倉 良一

地下鉄のコンコースとバリアフリーで接続する地下1階と、その直下に設けた免震階の施工が本工事最大の難所となりましたが、スタッフが一丸となって取り組んだことで、無事乗り越えることができました。

苦心した免震構造の設計、その経験を成長の糧に

相互館110タワーには、大地震時にも機能維持が可能なよう、免震構造を採用しています。その施工で課題となったのは、地震時の横揺れで躯体が地盤と衝突しないよう、外周と地下に隙間を確実に設ける必要がある中で、建築面積を最大限に確保することでした。三次元での解析・検討、現場のスタッフとの協議を幾度も重ね、無事に免震階の工事が終わったときは感無量でした。

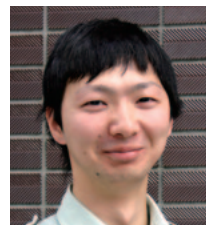


設計担当 薦川 幸佑

今回のプロジェクトを通じ、試行錯誤の過程で得たノウハウや、多くの人たちと協力しながら工事を完遂できた経験を、自分のさらなる成長の糧とし、今後の業務に生かしていきます。

職人さんのアドバイスから多くのことを勉強

2010年4月に入社し、今回が初めての現場勤務で、主に鉄筋工事や地下の仕上げ工事を担当しました。自分で作成した担当工事の工程表について、職人さんから誤りの指摘やアドバイスをもらうたびに未熟さを痛感。しかし、そうしたやりとりを繰り返すことで、そうしたやりとりを繰り返すことで、



施工担当 原 征輝

仕事内容を理解していくことができ、大きな自信につながりました。また、資材の搬出入や廃棄物の回収などでは、交通量の多い都心部での車両手配の難しさを学びました。

今後後輩に、この現場で多くの先輩や職人さんたちから教わったことを、同じように伝えていきたいと思います。

新本社での営業開始と見学会のご報告

当社は、2012年8月1日より、東京・京橋の新本社で営業を開始しました。新本社には独自の省エネ技術や最先端の環境技術を導入し、同年6月には世界的な建物環境性能評価指標であるLEED*新築版において、ゴールド認証を取得しました。



SHMZ

お江戸のエコライフをしのぐ、
超環境オフィスが誕生しました。

清水建設
新本社

子どもたちに誇れるしごとを。

清水建設

SHIMIZU CORPORATION

東京都中央区京橋二丁目1番1号
Tel: 03-3561-1111 (大代表)

清水建設は、本日より東京・京橋の新本社で営業を開始いたします。

清水建設が、一九〇三年から九〇年代に本社を構えたいた東京・京橋このゆかりの深い土地に、築いた新本社は、建築界に於ける先達のひびくのを、独自の省エネ技術や最先端の環境技術を導入し、結果、省エネの排出量を62%削減できる見込みとなりました。

次の挑戦は、CO2排出量を限りなくゼロにすること。日常環境にやさしい、知人にも快適な超環境オフィスを私たちに提供していきます。

※LEED (Leadership in Energy and Environmental Design) 米国グリーンビルディング協議会が主催する建物環境性能評価指標

また、営業開始直後の8月12日には、主に一般執務室や会議室、来客対応フロア、免震装置などをご覧いただく、株主様を対象とした新本社の見学会を開催しました。執務室では、輻射空調システムやグラデーションブラインドを利用した照明システムを紹介し、「省エネルギーと快適性の両立」という新本社のコンセプトを、実際に体感していただきました。参加された皆様からは「普段なかなか見ることのできない免震装置が興味深かった」「空調、照明、省エネなどに技術の高さを感じた」といったご意見を頂戴し、新本社に導入した最先端技術を身近に感じていただく良い機会となりました。

今後、新本社では、空調や照明などの最適制御をさらに進め、CO₂排出量をできるかぎりゼロに近づける“ゼロ・カーボン”を目指していきます。

* LEED (Leadership in Energy and Environmental Design)
米国グリーンビルディング協議会が主催する建物環境性能評価指標

見学会の様子



8月1日に掲載した
新聞広告

株主優待品の贈呈について

平成25年3月期の株主優待品は、前回に引き続き、当社東京木工場で製作した木製グッズといたします。平成25年3月31日現在のご所有株式数に応じて、優待品をご登録の住所にお送りいたします。送付時期は平成25年7月末頃を予定しております。

また、平成24年3月期の株主優待品をお受取りいただいた株主様を対象に、ホームページ上で株主優待に関するアンケートを実施。多数の方よりご回答をいただき、8割を超える皆様より「満足」とのご評価をいただきました。

皆様からのご意見・ご回答、誠にありがとうございました。

ご所有株式数	平成25年3月期の優待品
1,000株以上5,000株未満	しおり
5,000株以上10,000株未満	トレイ
10,000株以上	ポケットティッシュケース



優待品イメージ

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
ウェブサイト <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告掲載方法 電子公告
公告掲載URL (<http://www.shimz.co.jp/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関する各種お手続きについて

- ☐ 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、お取引の証券会社にお問合せください。
- ☐ 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行（左記連絡先）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- ☐ 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

表紙写真

青山学院大学17号館（東京都渋谷区）
設計／株式会社日建設計



<http://www.shimz.co.jp/>

当社ホームページでは、「株主・投資家情報」をはじめ、「実績・技術ソリューション」、「CSR活動」など、さまざまな情報を掲載しております。ぜひ、ご覧ください。

 清水建設株式会社

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号

TEL 03-3561-1111（大代表）

<http://www.shimz.co.jp/>

